

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取湖陵高等学校

重点項目	I C T活用教育	提出日	令和4年4月21日
------	-----------	-----	-----------

1 学校目標	
<p>「多面的な取組で地域産業を担う専門人材を育てる鳥取湖陵高校の教育を推進する」</p> <p>①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育て、キャリアの充実を図る。</p> <p>②新たな学び方を通し、生徒の主体的で深い学びを促し他者と協調する能力を養う。</p> <p>③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する。</p> <p>④生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める。</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>重点目標：学びを創造する力を高める教育の推進</p> <p>学びを創造する力を高める教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に仲間とともに学ぶ喜びを感じると同時に学ぶ責任があることの意識を高める。 ・ICT活用教育を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける。 ・BYODの成果と課題を検証し発信する。 ・協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学びを実践し、主体的で深い学びに導く。 ・専門教科と共通教科の連携等の工夫を行い、学力や学習意欲の向上を目指す。 <p><数値目標></p> <p>○iPadを使うことで授業に関心を持ち、主体的に取り組むようになった生徒の割合 (学校全体 学校評価アンケートより H29 56.2%、H30 67.7%、R1 69.7%、R2 69.2%) をR3 目標70%以上(アンケート等評価基準B以上)</p> <p>○ICTを活用した交流学习を通して、コミュニケーション能力が向上した生徒の割合 (情報科学科、情報科学科アンケートより H29 88.3%、H30 86.7%、R1 68%、R2 87.6%) をR3 目標80%以上(アンケート等評価基準A以上)</p> <p>○iPad(タブレット型端末)を活用して授業を実施した教員の割合 (教職員、県活用状況調査より H30 70.8%、R1 68.8%、</p>	<p>◎これまで活用してきた iPad による協同学習に加え、chromebook の配布により教職員はどちらかの端末を所有し、授業等に活用することができた。生徒の健康観察やクラス等の連絡に Google classroom を活用するなど生徒は様々な機会 ICT 機器を活用した取り組みを行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・chromecast、AppleTV、農場のアクセスポイント設置など ICT 活用学習のための環境を充実 ・ICT 活用研修会(2回)、ICT 活用公開授業研究会(1回)を実施 ・共有 iPad、chromebook の使用頻度はほぼ毎時間(週30時間)、公開授業の実施は28回 ・専門教科と普通教科の連携は継続して実施 <p><数値結果></p> <p>○iPadを使うことで授業に関心を持ち、主体的に取り組むようになったと答えた生徒の割合 目標値を60%以上から70%に高めたが、R3 68.4%であり、達成できず</p> <p>○ICTを活用した交流学习を通して、コミュニケーション能力が向上した生徒の割合 R3 76.0%であり、達成できず</p> <p>○iPad(タブレット型端末)を活用して授業を実施した教員の割合 7月60.4%、12月87.5%であり、目標達成</p>

<p>R2 は調査なし) →R3 目標 80%以上 (アンケート等評価基準 A 以上)</p> <p>○教職員へ ipad または chromebook を貸与した割合 (R2 81%) →R3 目標 100% (アンケート等評価基準 A 以上)</p>	<p>○教職員へ ipad または chromebook を貸与した割合</p> <p>8 月には全常勤職員へ ipad または chromebook を貸与、3 月には全常勤職員へ chromebook を貸与し、目標達成</p>
---	--

3 実施事業

【高等学校課事業】

(1) 外部人材活用事業 (社会人講師活用事業)

情報科学科コンピュータデザインコース

「情報デザイン」ノベリティグッズのデザインをテーマに、デザインの方向性、工程作業等の指導を受ける。

→専門家からのアドバイスを受けながら制作することができ、自身のデザイン力を引き出してもらえるチャンスとなっている。自分の作品を発表したり、他者の作品を評価したりすることでデザインの本質を理解しながら取り組むことができた。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」(教員スキルアップ事業)

協同学習、ICT 機器を取り入れた研究会を行い、大学等の研究者等から理論、実践面について指導を受ける。公開授業や授業研究会等は自校のみならず、他校の教職員にも案内の上、実施する。

→新型コロナウイルス感染症対策のため、すべてビデオ会議システム(Google Meet)で実施した。各先生が一人一台端末を利用して部屋を分散して参加・閲覧した。分散登校中のため、半分の生徒はリモートで参加した。次年度の1年生から一人一台端末になることに備え、ICT を活用した授業展開を考えるきっかけとなった。

【独自事業】

(1) ふるさと交流事業

鳥取豊学校、近隣小学校を対象とした ipad 活用支援とプログラミング交流

本校施設、小学校施設およびオンラインでの交流

→緑地デザイン科の鳥取豊学校小学部との園芸交流は、リモートによるフラワーアレンジメントに挑戦した。ipad を使ったの見せ方を工夫しながら一緒に作業することができ、コミュニケーション能力の向上を感じた。

→情報科学科の鳥取豊学校との交流は、ZOOM を使ってお互いの学習の様子を紹介し合い、自己のコミュニケーション能力の向上につながっている。湖山小学校とのプログラミング交流は、1 クラスを2グループに分けて実施し、小学生のプログラミングに対する興味を喚起できたと、本校生徒は実感している。

(2) 指導力向上事業

アクティブラーニングの推進 (一部高等学校課事業)

- ・ ICT 活用・協同学習に関する研修会の開催
- ・ ICT 活用 (ipad 活用・BYOD を含む) 研究のための視察・研修、成果の公開及び環境の整備
- ・ 各種研修会への参加 (授業改善や生徒指導のヒントや教育についての最新の知見を得るための情報収集・デジタル教材の導入等の取組み検討)

→ICT 活用公開授業研究会は、ICT を活用した研究授業を行い、鳥取県教育センター GIGA スクール推進課係長 岩崎 有朋氏に研究協議の指導助言と「高校 GIGA の推進に向けて」の講演をしていただいた。校外からは1名の参加があった。コロナ禍により先進校の視察はできなかった。

chromebook を使った授業のため、chromecast を各クラスに整備した。

4 総合所見（成果・評価）

以前から行っていた地域や他校との交流事業や、校内での各行事・授業が、コロナ禍により ICT を活用した形へ変化している。chromebook を全職員へ配付できたことにより、授業への活用の他、生徒の健康観察、クラス等の連絡に Google classroom を活用する機会が増え、生徒は様々な機会に ICT 機器を活用した取り組みを行うことができた。

様々な形での ICT 活用が可能となる環境整備を推進しつつ、ICT 活用を使うことのみを目的とするのではなく、本来の教科や科目の目標や、新しい評価の観点での評価方法、鳥取湖陵高校で育むべき資質・能力などを考慮に入れた授業改善につながる活用を考えていきたい。

BYOD の成果と課題を検証し、新1年生の BYAD に向けた活用ポリシーを作成するにあたり、2、3年生を含めた学習用個人端末活用の考え方（校内 Wi-Fi の開放・時間・スマートフォンの活用）について明確な方針を定める必要がある。

※枚数任意